

ひ き は く  
曳 博 だ よ り

2014.1



編集・発行：曳山博物館 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町 14-8 TEL 0749-65-3300 FAX 0749-65-3440

明けまして

おめでと〜うございませ〜う。

皆さまの新年のご多幸を

祈念申し上げます。

館長 中島 誠一

曳山博物館&曳山文化協会の一年を振り返りま  
すと、「暇に見えて忙しい博物館&自転車操業」  
という言葉がぴったりだったように思います。ま  
ずもって曳山祭が天候に恵まれて順調に遂行され  
たこと（御旅所からの帰りが遅くなったとの御批  
判もありますが）、四基の曳山が本館に無事据え  
付け展示されたこと。大きな修理はありませんで  
したが、修理専門委員の先生方と山組の方たちと  
の協議もスムーズに進み業務が滞らなかつたこ  
と。また三役修業塾の充実も目を見張るものがあ  
ります。三役は子ども狂言の開催に欠くことので  
きないものです。その問題は20年ほど前から切実  
なこととして関係者を悩ませてきました。戦後、  
農村部からの三味線、義太夫語りが期待できなく  
なってきたからです。背景には兼業農家が増加し  
て、文化を楽しむ余暇がなくなってきたこと、そ  
れに伴って大流行した義太夫語りが次第に萎んで  
いったことがあります。危機感を抱いた有志が集  
まって練習、精進を重ねた結果、今では地元の曳  
山祭に出演するばかりか近隣の曳山祭、隣県の曳山  
祭にも出演することとなり、曳山文化の保全に大きな  
力になっています。

また近くの例では長浜市宮司の曳山 颯々館が初め  
て修理されるに及んで、関連のシンポジウムや写  
真展示など地元の方による曳山文化の紹介がなされ  
たことは、地域の伝統文化の再開と見直し、継承に  
繋がるエポックであると思います。

また博物館の生命線といふべき展示活動が予定通  
り遂行できたこと、これは学芸員でもある私にとつ  
て望外の喜びでありました。これこそチームワーク  
と所蔵者の方々のご理解の賜物と深く感謝いたして  
おります。ここで展示の舞台裏を吐露いたしますが  
曳山文化に関連した展示は、その関わる範囲が膨大  
であるため展示資料には事欠かないものの展示工夫  
は並大抵のものではありません。曳山そのものの展  
示があればそれでいいのではないかと思いがちです  
が、それではリピーターが期待できません。博物館  
展示は常にフレッシュであるべきなのです。そうす  
ることによって何度行っても新しい発見があること  
を来館者に認識して戴けます。大きく分けて①子ど  
も狂言②有形文化財としての曳山③それを伝える  
町衆の文化であると思っております。①からは人形浄  
瑠璃や歌舞伎そして義太夫など日本の伝統芸能と  
深く関わります②からは曳山の制作に関わる飾り金  
具や幕、塗りなどの職人の技をはじめ、伝統工芸で  
ある長浜仏壇との深い関連は必須です。③からは町  
衆が所蔵するハレの日の食器や絵画類そして装束ま  
で無限にその展示エリアは拡大できます。加えて長  
浜市内の伝統芸能の紹介も当館の任務となるでしょう。  
曳山文化は祭礼文化のリーダーとしてその歴史的使  
命を果たす必要があるからです。

また1月19日からは黒田官兵衛博覧会も開催され、当館も城下まち館として「秀吉の町づくり」や「長浜に関連した武将たち」の紹介をする予定です。これを機会に市民の方々を始め多くのお客様をお迎えし、曳山文化に触れていただきたいと思います。

曳山博物館内に  
特設会場「城下まち館」を  
オープンします！！



迎春企画展 シリーズ干支  
「瓢箪から駒」  
ひょうたん こま  
館長 中島 誠一

恒例となった曳山博物館のシリーズ干支展、平成26年の干支は午。午とは干支（十二支）の七番目で方角は「南」、陰暦5月の異称です。これに馬を組み合わせるのは庶民に十二支を普及させるためでしたが、日本人と馬は古代から深い結びつきがありました。

本展示では滋賀県内の古墳から出土した馬形はにわ、豪華な鐘形鏡板轡（くつわ）を始め、長浜市十里遺跡の日本最古級の絵馬を見ていただきます。

また湖北ゆかりの武将たちが使った馬印や、長浜曳山祭子ども狂言で演じられた「馬方三吉」を写真パネルで紹介します。駒などなぞコーナーでは、馬にまつわることわざを集めてみました。どこまでもどこまでも疾走チャレンジしてみてください。

本展示を通して私たちが馬の身近なそして深い関わり合いについて認識できれば幸いです。

■会期Ⅱ平成25年12月16日  
Ⅲ平成26年1月26日

■出陳資料は古代の馬具や馬形はにわ、絵馬そして九谷焼の「瓢箪から駒」深鉢など多彩です。新年の話題作りに最適です。なお新年には曳博オリジナル馬双六を差し上げる予定です。

馬形はにわ  
(御明田古墳群 1号墳出土)  
野洲市教育委員会



瓢箪から駒図 九谷焼鉢(部分) (個人蔵)

コラム

瓢箪については種々の思い入れがあります。就職して長浜市の記章を頂戴した時、千成瓢箪がデザインされていました。秀吉のトレードマークと思って

いましたが、館藏品となった「賤ヶ岳合戦図屏風」に描かれた秀吉の傍にある馬印は瓢箪を逆さまにして棹に刺したシンプルなものでした。天下人、秀吉にしては如何にも「地味」と感じました。のちに「神になった秀吉」の展示を担当して「絵本太閤記」を見ているうちに秀吉の背後に豪華な千成瓢箪が描かれていることに気付きました。知っている人にとっては「常識だよ」と言われそうですが、江戸時代の庶民の気持ちに近づけたような気がしたことを思い出します。また故秋田裕毅氏が瓢箪の「中空構造」について言及したことも印象深い思い出です。「中が空っぽのものには靈気が籠っている」という話ですが、そういわれらると社会問題になった新興宗教の高額の壺販売や、かぐや姫の話など色んなことが想起されます。花咲翁さんの葛籠も結構怖い話ですね。皆さんも自分の身の回りに「そう言われれば・・・合点」という事例が沢山あるかと思えます。

予告

企画展 「シリーズ曳山の美」  
「百花繚乱」  
学芸員 中山 芳章

■会期Ⅱ平成26年1月27日Ⅲ3月2日  
■場所Ⅱ一階エアタイトケース  
および二階企画展示室

「百花繚乱」とは、色々の花が咲き乱れること。転じて、秀でた人物が多く出て、すぐれた立派な業績が一時期にたくさん現れること。「百花」は種々



壽山 舞台障子 ざくろしょうきん 石榴小禽図 (部分)

の多くの花、いろいろな花の意。「繚乱」は花などがたくさん咲き乱れている様子。また、すぐれた人材や美女が大勢集まるたとえ。とされています。皆さんはご存知かもしれません、実は、長浜曳山祭の曳山やそれを飾る装飾品には、色々などころに色々な花々が鏤(ちりば)められています。長浜曳山祭は、江戸時代から昭和初期まで一時期を除き、秋に開催されていたこともあり、曳山の装飾品には紅葉をテーマとしたものがよく描かれています。それ以外にも菊や芙蓉、牡丹など美しい花々も数多く描かれています。特に、舞台障子、楽屋襖、舞台御簾(みす)、亭(ちん)背面の中間(ちゅうかん)建付(たてつけ)襖などに絵画として描かれています。こうした絵画は、曳山を飾

る装飾品の中でも優れた作品の一つとして知られています。これらを製作したのは、京都出身の画家で後に長浜に移住し、湖北出身の画家の師匠でもあった山縣岐鳳(やまがたぎほう)をはじめ、明治初年には一千余人の絵師のうち、第七位を獲得するなど京都画壇で活躍した八木奇峰(やぎきほう)、花鳥画を得意とし、平安四名家と称された横山清暉(よこやませいき)、また地元長浜で活躍した中谷求馬(なかつたにもとめ)や杉沢春厓(すぎさわしゅんが)など当代随一の優れた絵師たちでした。また、それに加えて、今日動く美術館とも称されるまでに絢爛豪華な曳山を作り出すことができたのは、当時の長浜の町衆たちの高い経済力と優れた美的感覚があったからに他なりません。つまり、今日ある長浜曳山祭の曳山やその懸装品は、まさしく「百花繚乱」という言葉を体現したものだといえるのではないのでしょうか。ただ、長浜曳山祭といえ、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(国選択無形民俗文化財)であり、本流の歌舞伎の演技法などを取り入れ、6歳から12歳ぐらいまでの男子を役者に仕立てた子ども狂言(歌舞伎)が一番の見所としてよく知られています。実際に祭りの期間中は、子ども狂言を見るために全国各地から毎年大勢の方が長浜を訪れます。しかし、その子ども狂言の魅力を最大限に引き立たせているのは、曳山本体に加えて、曳山を飾る幕類や舞台障子などの装飾品です。もちろん、主役は子ども役者たちであることは間違いありませんが、曳山や装飾品



諫鼓山 桐幕「紫陽花双鶏図」

のことを色々知った上で見ていただければ、また違った視点で長浜曳山祭を楽しんでいただくことができると思います。

当館では、「シリーズ曳山の美ー百花繚乱」と題した企画展を過去2回開催させていただき、例年曳山に飾られる幕類や舞台障子などの装飾品を中心に展示いたしております。本年も、普段見ることの出来ないものから間近で見ることのできるもの、また曳山祭当日にはゆつくりと鑑賞することができない装飾品を展示させていただく予定です。また、この企画展を通して、曳山の色々な場所に描き出された珠玉の花々をご覧いただき、長浜曳山祭の曳山の魅力を再認識していただければ幸いです。



さんばくん

ご報告 歴史探訪会

「奈良県 壺阪寺」へ行ってきました!



平成25年11月18日(月) 曳山博物館一行は豊公園に8時集合、奈良県高市郡高取町壺阪寺へと向かった。バスの中では出来立ての旅のしおりをテキストに行路の説明や壺坂靈験記の由来、元靈験記の話など話題彷彿。あつという間に名阪道を降りて針テラスで休憩、いよいよ大和路を走る。天気は肌寒いものの雨の心配はない。

壺阪寺へは予定の11時半をやや過ぎたころ到着。ご住職のお出迎えがあり早速に講話を戴く。面白い、気さくな語りの中に円熟味がある。印象に残った言葉。「当寺はお里・沢市の壺坂靈験記で有名ですが、この話は作り話だと言う人がいます。当たり前です。あんなげなげな女性がいるはずありません」「また面白いことに二人が飛び下りた谷まであります」これを聞いただけでも現地見学の意義がある。この日



を見学会に選んだのにはわけがある。特別展「壺坂靈験記」の講演会の直後が壺阪寺の観音さんの命日の18日にあたるのでその日に見学会をセットした方がより興味深いものになると考えこの日を選んだのである。

(紅葉もきれいでした!)



る。まさに靈験あらたか、ご住職の法話や執事の方の直々の案内や法楽など実に心温まる接待を頂戴した。今度は夫婦で行きたいなうというお話も帰りのバスの中では聞こえてきて、沢山の杖の効果てきめんと一人にன்றまりした旅であった。

(中島)  
※今年度中に、あと一度見学会を計画中です!お楽しみに!

年間観覧券のご案内



曳山博物館では、随時年間観覧券の販売を行っています。ご購入から二年間、いつでも何度でもご入館いただけます。

- ◎個人券・・・一年間二〇〇〇円(ご本人のみ)
- ◎家族券・・・一年間三、〇〇〇円(ご本人を含めご家族五名様まで)
- ◎法人券・・・一年間一〇、〇〇〇円(一回につき一〇名様まで)



★通常大人六〇〇円ですので、大変お得な券です。いつでも事務所にて販売しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。  
(Tel 0749-653300)

休館日のお知らせ

12月29日～1月3日 年末年始 休館日  
1月14日 ■臨時休館(館内燻蒸のため)

展示のお知らせ

現在 在 諫鼓山・青海山 展示中

1月26日 まで ◎シリーズ干支「瓢箪から駒」  
馬形はにわ、武将たちの馬印など  
うま・馬・ウマを展示!

1月27日～ ◎企画展「シリーズ 曳山の美 百花繚乱」  
3月2日 曳山に描かれた花々を展示

3月3日～ ◎企画展「シリーズ 曳山を支えた人たち」

今年の冬は、雪が多いだろう・・・と聞きます。積雪情報「長浜〇〇センチ」の報道に、観光客の足が遠のかないかと心配します。余呉の積雪だろうと地元の人にはわかりますが(笑)雪はチラホラがいいですね。



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM  
**曳山博物館**  
ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

発行日：平成26年1月1日